

## 平成4年度 会員の学会発表抄録

### 第42回 日本病院学会(1992.6.大阪) (第42回日本病院学会講演集より転載)

#### 大阪労災病院におけるCD-ROM 文献検索の利用 状況 — アンケート調査による評価 —

大阪労災病院

○松井 美抄枝  
田中 道夫

#### 1. はじめに

医学とその関連分野の発達は目ざましくそれに携わる者は常に新しい情報や知識を吸収していかなければならない。病院の臨床活動や研究活動においても同様であり、そのため病院図書室でも従来にも増して情報提供の重要性が高まっている。

最近、新しい情報提供メディアであるCD-ROMを導入する施設が増えてきている。

1991年5月より大阪労災病院図書室にSilver Platter社のCD-ROM版MEDLINE(1966年以降)が導入された。そこで、導入後検索技術指導の講習会を開き一般利用を開始した。それから6か月が経過した時点でCD-ROMの利用状況の把握と有効活用を促進することを目的にアンケート調査を行ったので、その結果を分析報告したい。

#### 2. 調査方法と期間

Silver Platter社のMEDLINE CD-ROMは全文英語によるもので、利用者が医師中心であることから医局員全員(研修医も含む)にアンケート用紙を作成し配布した。調査期間は1992年1月の1か月間とした。

#### 3. 結果と考察

アンケート配布者数120名中55人(46%)より回答が得られた。アンケートの結果は(表-1)の通りである。CD-ROMの検索は約50%の人が利用している事がわかった。利用しなかった理由

としては知っていたが使い方がわからないという答えが46%とかなり多い数字が出ている。また、使い方がわかれば利用するかという質問では75%とかなり多く利用すると答えている。よく利用していると答えた人の殆どは今後、自分で文献検索を行うと答えている。利用回数が5回以上の人は検索操作は容易、もしくは普通と答えている。しかし、利用回数が4回以下にとどまっている人は検索操作が難しく、検索結果も不満と答えている事がわかった。今後の課題として、院内への幅広いアピールの必要性和検索テクニックを高めていくうえから講習会に参加できなかった人には、要請があれば個人指導を行っている。

情報検索の成否は的確な索引語を選択することにかかっているため今後講習会の指導内容なども充実していかなければならないと考えられる。

医学関連分野の情報が目まぐるしく変化する今日、自分が必要とする情報をいかに的確に選択しそれを活用するかが課題である。

今後、当院でもますますCD-ROMの利用が多くなるであろうと考えられる。

#### 4. まとめ

CD-ROMが導入されて6か月とまだ日が浅いにもかかわらず一度利用した人は毎日のように検索にやってくる。オンライン検索ではなかなか利用できなかった職種の職員にも気軽に利用されており利用者の反応は良好である。しかし、実際に利用者へ接して感じる事はコンピューターを操作しての検索なので容易に溶けこめる人とキーボードに向かひつためらいを覚える人がいる事は事実である。

コンピューターに慣れていないと検索結果の内容にかかわらず操作を難しく思っていることが窺われる。今後、CD-ROMを有効に活用する為には、検索方法などの基本的な操作方法に対する理解を深める必要があり、その為の適切なシステムを考える必要がある。

表 1

CD-ROM利用アンケート調査結果					
					( ) = 人数
回答者あなたは	外科系 (20)	内科系 (27)	その他 (8)		
あなたの年齢は	20代 (19)	30代 (21)	40代 (10)	50代 (5)	60代 (0)
1. CD-ROM利用の有無	イ. ハイ (28) 52%		ロ. イイエ (26) 48%		
2. CD-ROMを利用しない理由	イ. 知らなかった ( 2) 8%				
	ロ. 知っていたが使い方がわからない (12) 46%				
	ハ. プロパーなどに依頼 ( 9) 35%				
	ニ. 検討する時間がない ( 3) 12%				
使い方がわかったら利用するか	ハイ. ( 9) 75%		イイエ. ( 3) 25%		
3. 検索のテクニックの方法	イ. 図書室の講習会 ( 3) 11%				
	ロ. 英文マニュアル ( 1) 4%				
	ハ. 担当者による個人指導 (18) 67%				
	ニ. 既に知っている人から教わった。 ( 2) 7%				
	ホ. その他 ( 3) 11%				
4. 利用回数	イ. 0回 (26) 52%		ロ. 2-4回 (8) 16%		ハ. 5回以上 (16) 32%
5. 情報検索の目的	イ. 臨床検討 (28) 29%		ロ. 論文(論文作成) (34) 35%		
	ハ. 学会発表 (25) 26%		ニ. 研究開始 (10) 10%		
6. 索引語の選択	イ. MESHを利用 ( 2) 7%		ロ. フリーターム (26) 93%		
7. 検索操作	イ. 容易 ( 8) 28%		ロ. 普通 (16) 55%		ハ. 難しい ( 5) 17%
8. 収録範囲	イ. 最新だけ ( 0)		ロ. 1-5年 (14) 34%		ハ. 5-10年 (17) 42%
			ニ. 10年以上 (10) 24%		
9. 検索結果	イ. 大いに満足 ( 4) 14%		ロ. 満足 (20) 71%		
	ハ. 不満 ( 4) 15%				
10. 検索結果不満の理由	イ. 適合文献が少ない ( 3) 75%				
11. 今後の文献検索は	イ. 全て自分です ( 7) 16%				
	ロ. 簡単な検索だけ自分です (33) 73%				
	ハ. 図書室に全て依頼 ( 5) 11%				
12. 今後図書室に依頼できれば利用するか	イ. ハイ (45) 94%		ロ. イイエ ( 3) 6%		
13. その他のCDの利用	イ. ハイ (23) 58%		ロ. イイエ (17) 42%		
医学中央雑誌 CD版の利用	イ. ハイ (43) 94%		ロ. イイエ ( 3) 7%		

コンテンツサービスについて

淀川キリスト教病院

○山崎 捷子  
船戸 正久

室では、その1つの試みとして1987年暮よりコンテンツサービスを開始した。これは新着雑誌の到着、内容を案内するもので、目次を複写して回覧し、希望者には該当文献を複写、配布するサービスであるが、今回利用状況の分析と利用者に対するアンケートを行ったので報告する。

1. はじめに

最近医療の質の向上が叫ばれ、迅速で適切な情報提供は図書室の重大な任務となってきた。

しかし、医師をはじめとする医療スタッフは日常業務に追われ、なかなか図書室に足を運ぶ時間がない。従来の利用者サービスは、利用者が図書室に来てから動き出す受身の形のサービスであるが、今後は図書室から積極的に利用者へ働きかける形のサービスが必要なのではないだろうか。当図書

2. アンケート調査

- (1) 調査期間：1992年1月
- (2) 調査対象：全常勤医師 80名
- (3) 回収率：回答54名 回収率67.5%
- (4) 調査項目：(表-1)

表-1 コンテンツサービスに関するアンケート

※ 該当するものに○印をつけて下さい。

1. 配布するコンテンツシートには目を通されますか?
2. このコンテンツサービスでコピーを希望されたことがありますか?
3. お手元に届けられた文献の利用目的についてお尋ねいたします。
4. 浅川キリスト教病院以外の所でコンテンツサービスを受けられたことがありますか?
5. コンテンツサービスの一善の利点と思われるものは何ですか?
6. コンテンツサービスについて御意見又は御希望がございましたらお書きください。

表-2 コンテンツシートによる文献複写サービス

順位	〔1990年11月～1990年4月〕		〔1991年7月1991年12月〕	
	科名	件数	科名	件数
1	内 科	580	内 科	1,000
2	小 児 科	179	泌尿器科	221
3	精神神経科	76	小 児 科	170
4	泌尿器科	69	整形外科	140
5	整形外科	67	耳鼻科	70
6	看護部	58	管理部門	64
7	外 科	50	外 科	27
8	産婦人科	38	看護部	18
9	管理部門	17	病 理	16
10	その他	8	その他	13
	合 計	1,142		1,739

3. 結果

A. アンケート結果は図1～5の通りである。このアンケートから次のことがわかった。

(1) コンテンツシートの利用状況は「いつも目を通す」人と「時々目を通す」人を合せて100%であり、全員がこのサービスを利用していることがわかった(図-1)。

(2) コンテンツシートによる文献複写サービスについては、「いつも希望する」と「時々希望する」を合せて92.6%であり、ほとんどの人が利用していることがわかった(図-2)。

(3) 文献の利用目的については、最も多かったのが「最新の知識を得るため」、次が「学会(研究会)等発表のため」、3番目が「症例検討として」であった(図-3)。

(4) 「当図書室以外でコンテンツサービスをうけられた事がありますか」との問に対しては、34%の人があると答え、その内容は「プロパーからのサービス」と答えた人がほとんどであった(図-4)。

(5) このサービスの利点についての問に対して一番多かったのが、「図書室に足を運ばなくても新着雑誌の情報を手元で見ることができる」であった(図-5)。

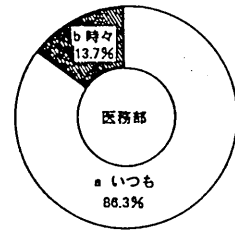


図-1 コンテンツシートに目を通しましたか

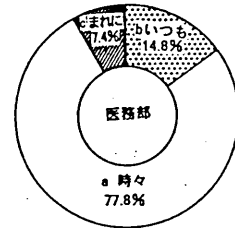


図-2 コンテンツサービスでコピーを希望されたことがありますか

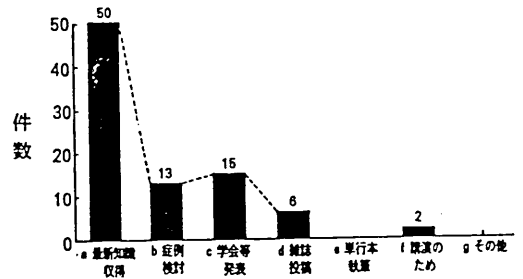


図-3 文献の利用方法

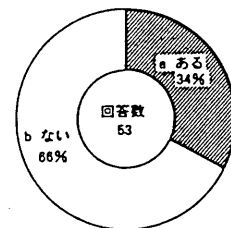


図-4 YCH以外でコンテンツサービスを受けられたことがありますか

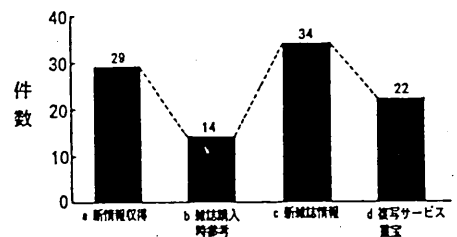


図-5 コンテンツサービスの一善の利点(複数回答合計)

B. コンテンツシートによる文献複写件数について1990年と1991年を比較してみると、全体で597件増えている(表-2)。しかし、このコンテンツを見て、内容が興味あるものであれば、雑誌を1冊購入するという傾向がみられる。産科と外科はコピー希望がほとんどなくなり雑誌を1冊購入するようになってきている。内科はコピー希望も増加しているが、雑誌1冊購入も1988年には1医師平均1.5冊であったのが、1991年では1医師平均12冊と大幅に増えている。

#### 4. おわりに

以上の調査からコンテンツサービスは日常業務に追われ図書室に足を運ぶ時間がない利用者に役立っていることがわかった。

当図書室が医師に行っているのと同じ形のコンテンツシートによる文献複写サービスは、図書専任の担当者が1名、又担当者の兼務が多い病院図書室には業務量の問題があるので難しいと思われる。しかし、別の形のサービスによっても新着雑誌の情報提供は可能である。当図書室では対象人数の多い看護婦に対しては、看護関係の雑誌のコンテンツシートを職員ロッカーの前の掲示板に掲示している。又各病棟の看護責任者には新着雑誌の記事でその病棟に該当するものがあれば、コンテンツシートを配付していて、その場合部局図書としてこの雑誌を1冊購入するケースが多い。管理職員には数種の医療情報紙のコンテンツシートを配付している。

従来当図書室では文献検索のツールを持っていなかったが、昨年MEDLINEと医学中央雑誌のCD-ROM版を購入した。しかし、このMEDLINE、医学中央雑誌とも、いずれもかなりのタイムラグがあり最新の情報入手には充分とは言えない。これをカバーできるものは、新着雑誌であり、役立つ図書サービスのひとつとしてできるかぎりコンテンツサービスを続けていきたいと考える。

#### 第9回 図書館情報サービス研究大会

(1992.6.京都)

#### 病院図書室における文献検索CD-ROM導入の経験

日生病院

千住 とも子

導入目的：スペースを拡張できない図書室において資料保管スペースの捻出を目的とした。

① INDEX MEDICUSをCD-ROM MEDLINEに切り替えて図書室内にスペースを捻出することを目的に1990年10月にCD-ROM MEDLINEを導入した。

②次いで1992年1月に医中誌(医学中央雑誌)CD-ROMを導入した。

#### 導入結果：

①CD-ROM MEDLINEに関してはIM(INDEX MEDICUS)とCurrent Contentsを購読中止し、またCD-ROMと重複する年のIMとCurrent Contentsを書架から取り除くことでスペースを作り出し、導入目的を果たした。

②医中誌CD-ROMに関しては発刊頻度、検索システムに不慣れな点に不安が残ること、また導入費用の点で医中誌冊子体の購読を中止してもしなくても掛かる費用に差がないことから、CD-ROMと冊子体の両方を受け入れることになり、スペース捻出の目的は果たせなかった。

運用効果：CD-ROMの導入にあたり当院ではOn-line検索システムの導入がなかったこともありコンピューターによる文献検索の利用者教育(図書室担当者を含む)が問題になった。そこで、CD-ROM機器導入時の業者の機器説明を院内全職員対象に「機器使用説明会」として呼びかけ、CD-ROM MEDLINE導入時、医中誌CD-ROM導入時にそれぞれ概要説明及び検索実習を行い、利用者教育の場とした。各回2時間、それぞれ約20名の集まりであった。以後取り立てて利用者教育の場は設けていないが、毎日利用者による検索や文献のブラウジングが行われている。また、図書係に検索依頼が増えた。この点においてCD-ROMの導入は成功であったと言える。

残る課題：On-lineと比較するとタイム・ラグが大きく、最新情報が得られない。CDが買い取りシステムでないためCDの蓄積ができず、CD-ROM利用契約を解除した時には図書室からMEDLINE、医中誌の情報が消え機器類だけが場所を

塞きいで残ることになり文献検索CD-ROMの市場開放に一考の余地が残る。

〔参考文献〕

1. CD-ROM MEDLINE use and users: information transfer in the clinical setting. Bull Med Libr Assoc, 78(3):224-232, 1990

## 小児病院図書室連絡会の活動

### — 雑誌総合目録作成について —

大阪府立母子保健総合医療センター 徳田 雅子

小児病院図書室連絡会は、1989年に東京で開かれた第6回図書館情報サービス研究大会をきっかけに関東の4つの小児病院図書室の担当者が交流する中で生まれた。これに対し「小児病院図書室連絡会雑誌総合目録」を作成した大阪府立母子保健総合医療センター（以下 府母子と略す）の図書室担当者は、関東のそれとは異なる要因から小児病院図書室連絡会に加わるようになった。

府母子は、1981年10月に周産期専門医療施設として発足した。図書室設置の大きな目的は、所蔵していない資料でも外部機関から迅速に取り寄せ利用者に提供することだった。そのためにまず近畿病院図書室協議会（以下 病図協と略す）に加盟し相互貸借業務を開始した。その翌年からは、大阪大学中之島分館が府母子に対し納入告知書による料金後納制を適用し、病図協内では入手し難いものも迅速に手に入るようになった。そのため、図書委員会も「府母子で購入しなくても複写文献という形でいつでも手に入れることができる」という安直な姿勢がみられるようになり、いくつかの雑誌の購入を打ち切った。

しかし大学図書館の蔵書に依拠したこのような収集方針は、1989年秋の国立大学図書館間の複写料金支払い猶予制度の実施によって、転換を迫られることになった。そしてこのことは、大学図書館に頼るばかりの相互貸借方針が転換点に立ったともいえる。原点に立ち戻ってみれば病院図書室自身のための相互貸借環境とは、病院図書室の連携のことであり、それは病図協が17年来営々と進めている相互協力活動のことだ。

小児病院図書室連絡会雑誌総合目録の作成には大変な労苦を必要としたが、病院図書室の連携の重要性を再認識したからこそ作ることができたのである。関東の小児病院図書室のそれぞれの担当者もこの目録の成果を評価し重視しているならば、小児病院という枠を越え、より広範囲な全国規模の病院図書室の連携の必要性をも認めているのではないだろうか。もしそうなら、是非とも病図協の連携の中でこそ小児医療専門図書室の特性を発揮して頂きたい、と関西の一小児病院図書室の担当者は強く願うものである。

## 病院図書室と生涯教育

社保広島市民病院 岡橋 郁子  
ほすびたるらいぶらりあん  
17(3):34-37, 1992 参照

## 社会保険中京病院図書室の機能評価

社保中京病院 大橋 真紀子  
ほすびたるらいぶらりあん  
17(3):41-43, 1992 参照

## 日本病院会全国図書室研究会（1992.9.神戸）

### シンポジウム

「病院図書室における資料の保存と廃棄」

### 資料保存上の諸問題

日生病院 千住 とも子  
病院図書室 12(4):94-97, 1992 参照

### 資料の分担保存

大阪回生病院 加島 民子  
病院図書室 12(4):97-99, 1992 参照

### 資料の保存方法の動向

西淀病院 前田 元也  
病院図書室 12(4):102-104, 1992 参照